

ショウウオがいるところをみると濁れることはない流れのようだ。13:20左俣出合。今日の目標はこの沢だ。

まずは出会いすぐの5m滝を直登する。ホールドは結構あるのだが、一番上に来てシャワーとなり、おまけにコケですべるのには参った。その先すぐにまたの滝。左岸に試し縄をしたのではないかと思われる高さ1m程の坑道が口をあけている。直登できるかとも思ったが、今日は1人なので何となく不安となり左岸を捲く。

この上はナメが続く。しかし今までの礫を固めたような岩から、細かい砂粒を固めたような感じの岩へと岩質が変化した。どうという滝もかからないので、どんどん先へと進む。

14:20兩岸は松のまだ若い植林地(1979年植樹)となり、沢は藪の中の細い流れとなっているのを見て、右岸の尾根を目指す。尾根上にははっきりした踏跡があり、男振部落へと続いていた。

(記)

[タイム] 赤沢出合(13:00)→左俣出合(13:20)→遊行終了(14:20)

赤沢右俣

1983年7月31日

L

国道399号が赤沢を渡る手前から流水路にそって道がある。そこを20分程進んで赤沢に降りる。遊行を開始するとすぐに左俣との分岐となる。水量は1:4で右俣の方が多い。断続的に続くナメを進み、取水口を乗り越えたと中俣との分岐に出る。中俣は調査が済んでいるので、右俣に入る。

右俣に入るとすぐ右岸に炭焼き小屋がある。次に左岸に千枚岩状岩壁がそびえたつ。中俣との出合からも見え、良い目印となる。さして変化もない沢だが、この岩場だけは迫力がある。

ガレ場の中にある3mの滝を越すと、沢床は泥状となる。少し進むとカレ沢となり、二俣に分かれる。右に入るとやがてルンゼが現われる。右のルンゼに入り、途中から左岸に登って稜線に出る。稜線には踏跡があり、果

